

● 文藝セクション

● 描かれた半球(A)
ラグアッサー 南仙子

市吉の家では市吉だけが中堅人物であった。一日の中に、寒い冬だと二時間、夏だと四時間、こうはつきり定つて御天。どう様が市吉の家を覗かした。その家には疊の弟の魚吉と、白痴でおしやれのトメ姉。これは二十二で、市吉は十八だった。それにまだ小さい妹のヨシがゐるし、母のクマに父の倉吉と、五疊の土間がある、トタン屋根に安板囲ひの貧民窟の中流階級だつた。

魚吉は十七だが、病的な醜態で、市吉の生活であり、家族が現だつた。

だしうのヨシは器量よしでありながらみじめなせいである。

それが母のクマは全身梅毒が現れて、腐りかけた體をゆすぶつ

て、毎日ブツブツ言つてゐる。それは一體、父の倉吉は何を立つてゐるかといふと、彼は立

派な廣告人、即ちチンドン屋なり。冬だと二時間、夏だと四時間ののである。

市吉が本當の倉吉の子ではないといふことを、母のクマが暴

いといふことを、腰のまわりに油紙を巻いて、クチャクチャした眼をぎょろ

つけながら歩くのである。で

彼女は市吉の一番氣の置けない友達であり、愚めの力だつた。

いつか雨の降つた午後、貰ひも

のと拾ひもの罐や布や色々なカタ餅を少し庵かして貰ひ

られた。二疊の部屋で、小便臭いカタ餅を少しあげて貰ひ

る。自分で病院の塵溜のやうに、如

くされ、父なし子の「猫の骨」

クマは猫の骨といふ言葉をよく

つて食はして置くから、こつた

使つた。馬の骨は細工に使つた

りして役に立つが、猫の骨は肥

くまは柔らかいものなんだ、

爺の子にしちゃあ、あんまりうなとこさわる人じやねえんだ。

つち(美し)過ぎらあ、この仙臺うそだと思ふなら考へてみさつ

の町の吉野屋の親爺の落し崩だせ、バイキンの回りみいたい倉

の世間らしい空氣のある市街に

出たといふ氣持がまた滅茶く見ることが度々あつた。こんな

時やつとあの貧民窟から、人間

鼓を鳴らして流して歩く倉吉を見つけて、太

白粉をこてて塗つて、鏡と太

鼓を鳴らして流して歩く倉吉を見つけて、太

白粉をこてて塗つて、太

の世間らしい空氣のある市街に

出たといふ氣持がまた滅茶く見つけて、太

白粉をこてて塗つて、太

の世間らしい空氣のある市街に

番

非常線(一)

な。こつちは命にも拘はらうつて場合だ。助りくれつて頼むからにや只じや済まねえ。相當禮をするよ。迷惑はかけねえか

法律

面會 午前九時より四時

法律相談 無料但返信切

手帳 各種さも

手帳 二週間以内に完成

呼

寄

R Joó Bonifacio, 12 - Tel. 2-7232

Caixa Postal, 1757 - S. Paulo

日本藥局

牧法律事務所

R. S. TAKAOKA

Medico e Operador

R. Cons. Furtado, 45 S. Paulo

博士

聖市

高岡專太郎

診察

午後三時より

六時まで

電話二一四〇七五

ゴンセリエイロ

フルダード街四五

ドクトル・アルベルト・スピ

博士

伊藤庄吉

○家傳名灸

○診療

○婦人病△慢性病△

婦人病△慢性病△

婦人病△慢性病△